

学科名	経営ビジネス学科							
科目名	国際関係論							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	水3			
必修・選択の別	選択必修							
担当者	岡 宏							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際政治、文化を横断する相互関係を分析的に思考することができる。 ・国際的人権問題について理解できる。 ・地球環境問題の今後を展望できる。 ・アジア太平洋における日本の役割、文明共存の方途を考えることができる。 							
内容	9月18日 第1回:「問題の所在」*講義における事前確認(講義の進め方と概要、成績評価) 9月25日 第2回:政治哲学としての「国際関係論」 10月2日 第3回:国際関係理論としての「リアリズム」 10月9日 第4回:国際関係理論としての「ネオリアリズム」 10月16日 第5回:国際関係理論としての「リベラリズム」 10月23日 第6回:国際関係理論としての「ネオリベラリズム」 10月30日 第7回:「コンスタクティヴィズム」の意義と役割 11月6日 第8回:講義内試験 11月13日 第9回:国際社会における人権問題 11月20日 第10回:事例検討(旧ユーゴスラビア) 11月27日 第11回:人道支援(子どもと教育から考える) 12月4日 第12回:グローバル・イシューとしての環境問題 12月11日 第13回:エネルギー政策 12月18日 第14回:アジアにおける日本の役割*「軍事的安全保障」VS「環境保全的人間安全保障」 1月15日 第15回:国際関係の展望(文明共存の方途) 1月22日 定期試験							
成績評価基準	定期試験(50%)、臨時試験(30%)、課題(20%)の成績を総計して評価点とする。							
授業到達目標の達成度	「国際政治、文化を横断する相互関係を分析的に思考することができる。」では、国際政治を除けば、概ね達成できた。「国際的人権問題について理解できる。」は、人権問題の現実に驚愕しながらも概ね理解できた。「地球環境問題の今後展望できる。」では、グローバル・イシューとして考察し、持続可能なエネルギー開発について理解できた。「アジア太平洋における日本の役割」については、時間の関係上、課題提示に留め、文明共存の視点から向き合う必要性を示すに終わった。							
反省点	講義前半に「国際関係理論」を講じ、後半で「人権・人道支援・エネルギー問題」などの各課題の分析を行った。ただ、講義が広範囲になり、具体的事例について思索するには、些か時間不足であった。							
来年度の計画	授業計画は、概ね今年度と同様に進める予定だが、反省点での記述を改善するための補助資料・教材の充実を図り、課題についても、より双方で意見交換行えるように考えてみたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	総合的に見て、特に問題はないと思われる。学生の満足を向上させるため、より平易な語彙を用いつつ講義を進めたい。							
履修登録者数	97名	定期試験 受験者数	85名	合格者数	82名	合格率	96%	